

いじめの早期発見のためのチェックリスト

1 早期発見に向けて

- (1) 早期発見には、命と人権を大切にした学級・学校づくりが何よりも大切である。
- (2) 日ごろから教職員と児童の好ましい人間関係の構築に努めること
- (3) いじめは教職員や大人には気づきにくいところで行われていることが多く、発見されにくいものであると認識し、子どもの小さな変化を敏感に察知し、見逃さないこと
- (4) 多方面からの情報を得ようとする

2 いじめを許さない学級づくりの視点

クラスを見直すチェックポイント

【年度当初】

- いじめは人権侵害であり、絶対に許さないという話をしましたか。

【日々の観察】

- 毎日、子ども一人ひとりの表情に気を配っていますか。
- 子どもの服装や素振りの変化に気を配っていますか。
- 机の並びや掲示物、教室内のゴミなどに気を配っていますか。

【教育活動全般】

- 日々の学校生活の問題を取り上げ、人としての善悪について考えさせていますか。
- どの子に対しても「認める」ことや「ほめる」ことを心がけていますか。
- 子どもの様子が少しでもいじめを疑われる時には、忙しくても優先して行動していますか。
- 学級づくりで悩んだ時、一人で抱え込んでいませんか。
- いじめのことで保護者と連絡を取る時、電話だけですませていませんか。
- 地域での体験などを通して、自分の存在意義を考えさせていますか。
- 地域からの情報を得る機会を積極的につくっていますか。

3 いじめが起こりやすい・起こっている集団の状況

- 朝いつも誰かの机が曲がっている。
- 掲示物が破れていたり落書きがあつたりする。
- 班にすると、机と机の間に隙間がある。
- 授業中、教職員に見えないように消しゴム投げなどを行っている。
- 教職員がいないと掃除がきちんとできない。
- 自由にグループ分けをさせると、特定の子どもが残る。
- 些細なことで冷やかしたりするグループがある。
- 学級やグループの中で絶えず周りの顔色をうかがう子どもがいる。
- 自分たちのグループだけでまとまり、他を寄せ付けない雰囲気がある。
- 特定の子どもに気を遣っている雰囲気がある。